

日本のしきたり

なぜ神社では「一拍手一札」なのか

日本人にとって、神社へのお参りはとても身近なものです。初詣をはじめとして、お宮参りや七五三のお祝い、合格祈願など、私はことあるごとに神社へ参拝します。しかし、きちんとしたやり方にのつとて参拝しているのでしょうか。日本人なら、正式な参拝のやり方くらいは知つておきたいものです。

境内に入つて身を浄め神前に向かいます。賽銭箱に賽銭を入れる前に鈴を鳴らします。これは、神様への合図の様なものです。

拝礼の作法は「一札二拍手一札」が基本です。

なぜ拍手を二度打つかというと、陰と陽の一対を表すとともに、古代中国より尊いとされてきた奇数ではなく、二という偶数を用いることで、神々ではなく人間が祈りに来たことを伝える為だと言われています。また古来、神に捧げる食事はカシワの葉を編んだ食器

を用い、神々に食事を捧げる合図として二拍の手打ちを行いました。そのように、二は神に願いを

いがちなので、そんな時こそ改めて自分を見つめ直す年にしたい。

又、私はおかげで今まで大病もせ

手するようになつたとも言いま

す。ちなみに、お願いするときは手の後にするのが一般的な様で

すが、神様にお願い事などするものではなく、どうかお導き下さ

い」とへりくだるのが本来の参拝と言われています。

参考に「二にまつわることわざを紹介します。二の足を踏む・人を呪わば穴二つ・二の句が継げぬ」『日本人のしきたり』より

坂井容充)

II年男&年女 II

還暦の年を迎えて

私は今年年男。又還暦を迎えます。昔の60歳の方を思うと、現在の我々は平和と豊かな生活を過ごしてきたせいか随分若い気がします。しかし、最近の世間は携帯電話やインターネットなどで日々でどこかで自分というものを見失

いがちなので、そんな時こそ改めて自分を見つめ直す年にしたい。

又、私はおかげで今まで大病もせ手するようになつたとも言いま

す。ちなみに、お願いするときは手の後にのが一般的な様で

すが、神様にお願い事などするものではなく、どうかお導き下さい」とへりくだるのが本来の参拝と言われています。

参考に「二にまつわることわざを紹介します。二の足を踏む・人を呪わば穴二つ・二の句が継げぬ」『日本人のしきたり』より

坂井容充)

何度目かの年女が廻つてきました。大沢に来てから、二度目にになります。この節目の年を元気に迎えられたことに感謝しています。

前回の時には、幼稚園にも行つていなかつた子供達は、今年、高校生になります。月日が経つのは早いですね。

今年も、家族みんなが楽しく笑顔でいらっしゃるよう

健康に気をつけ、元気に過ごしたいです。そして、12年後の還暦

いがちなので、そんな時こそ改めて自分を見つめ直す年にしたい。

平 明美

会員募集しています

女性会さくらんぼミセス部では、23年度の活動に向けて新規会員さんを募集します。

現在、会員数は17名で、幹事は会員の中から一年ごとに順番交代制で行っています。

大沢町の方々のご支援により今まで続いている、若い女性のためのおしゃべりサークルです。興味のある方はご連絡ください。

・年は3歳まで

・年会・活動内容は、話会、新年会など

連絡先

本日
中大沢

11

・お知らせ

粉末消火器の廃棄処分について

の方は、月20日までに

自会まで。

です。

1/23 文化財防火デー豊歳神社



簡単炊飯器でスイーツ チーズケーキ

市民図書室だより

材料　米粉40g クリームチーズ200g ヨーグルト50g プレーン砂糖不使用） 卵3個生クリーム80cc 砂糖60g レモン汁30g バター

卷之二

① クリームチーズ・ヨーグルト
卵黄をよくかき混ぜる。

② 卵白・砂糖を合わせ、泡だて器
で角が立つくらいまでよく混ぜ
る。

③ 生クリームも角が立つくらいま
で泡立てる。

④ ①②③を合わせ、米粉・レモント汁を加えさつくりと混ぜ、最後に溶かしバターを入れ、炊飯器に入れてスイッチを押す。

通常炊きで約40分)

ちらまでお知らせ下さい。皆様方のご利用を心からお待ちしております。

受賞のお知らせ
北防災の賞
第4分回 山本雅也さん
おでこうばいもいます。

12
／
26 おもしろ市場餅つき大会

事

とんと
1
14 上大沢



余寒ことのほかきびしく述べ大沢の川原の土手に可愛いふきのとうが顔を出すのを心待ちにしている今日このごろですが、大沢小学校市民図書室も地域の皆様に愛されて、開室から無事14年目を迎えています。いつも市民図書室をご利用下さいましてありがとうございます。今年の7月～8月の2カ月間は、小学校職員室の耐震工事の為、市民図書室は休室となり、ご利用の皆様にご不便をお

大沢地区社会福祉協議会 捐贈句

古るびても氣に入る
食事会山茶花の花注
十二月新聞チラシ克
春著裁つ日盛りうす
終の刺に守られ白き
山越えの冬と語らう
木枯や山の鶴の面様

皆様の貴重な善意のご寄付を大
切に使わせていただきます。有難

中大沢 和田智徳様

大沢地区社会福祉協議会

弘
枝
伸
郎
佐
代
子
正
子
澄
子
大
み
ゑ
し
ろ
う
木
枯
や
山
の
鶴
の
面
構
え
山
越
え
の
冬
と
語
ら
う
足
湯
か
な
終
の
刺
に
守
ら
れ
白
き
花
春
著
裁
つ
目
盛
り
う
す
れ
し
鯨
尺
十二
月
新
聞
チ
ラ
シ
克
明
に
古
る
び
て
も
氣
に
入
る
艶
冬
う
ら
食
事
会
山
茶
花
の
花
活
け
て
あ
り
三十
路
こ
す
喜
子
待
つ
母
や
凍
て
し
夜
切
干
の
並
ぶ
床
机
や
風
も
無
く
家々
に
あ
か
り
分
か
ち
て
冬
晩

1 1 12
/ / /
13 3 25
日 日 日
原 原 原
山
下 は る
さ さ さ
ん ん ん
80 783